

流動性と貢献能力の格差が協力行動に及ぼす影響

社会的ジレンマ状況を用いたインターネット実験

○仲間大輔（東京大学/リクルートマネジメントソリューションズ）・村本由紀子（東京大学）

キーワード：流動性、能力格差、集団内協力、社会的ジレンマ

集団での協働の達成のためには、成員間の社会的ジレンマの解消が重要となる(Rockman & Northcraft, 2018)。社会的ジレンマに関する既存の研究の多くでは、個人の貢献能力が均一であることが暗黙に仮定されてきたが(山岸, 1998)、実際の集団における協力の問題を考える際には、成員の地位や能力等の多様性に目を向け、集団に対する個々人の貢献度の差異を考慮した検討を行うことが不可欠となる。実際、仲間・仲村・村本(2019)は、二者間ジレンマを用いた実験研究によって、貢献能力の格差がある場合には高い貢献能力を持つ個人の協力傾向が低下することを示している。しかし、集団内の貢献能力の格差とそこでの個人の協力行動との関連を規定する構造的な要因について、先行研究は明らかにしていない。

そこで、本研究では、社会生態学的な観点から注目を集める「流動性」の役割に着目した探索的な検討を行う。社会関係における流動性については、個人の持つ能力等の特性と流動性との結びつきが示されつつあることから(岩谷・正木・村本, 2020; Sznycer, et al., 2012)、個々人の貢献能力に格差がある状況は高い流動性と親和的である可能性が考えられる。実際、仲間・渡部(2018)によるシミュレーションは、能力の多様性と流動性が組み合わさることで集団内の協力が安定的になり得ることを示唆している。本研究では、貢献能力の格差がある場合に、流動性が低い集団よりも高い集団の方が個人の協力傾向が高まるのではないかと考え、実験的な検討を行った。

方法

実験デザイン・手続き 実験参加者2人をネットワーク上で接続し、10ラウンドの公共財ゲームを行った。参加者は、各ラウンドの初めに与えられる持ち点の中から任意の点数をペア全体に投資する。投資された点は1.5倍され、その後ペア内で均等に再分配される。参加者は、貢献能力の格差：2(どの参加者も同じ持ち点を与えられる「格差なし」or 参加者によって与えられる持ち点が異なる「格差あり」) × 流動性：2(いつも同じ相手とプレイする「低流動」or ラウンドごとに相手が変わる「高流動」)の4条件のうちいずれか1つにアサインされた。

参加者 インターネット調査会社を通じて募集した120人から、途中脱落者等を除き、格差なし・低流動28名、格差なし・高流動22名、格差あり・低流動20名、格差あり・高流動20名を分析対象とした。

結果と考察

個人の持ち点のうち何点をペアに向けた投資に回したか(協力傾向)を従属変数とし、貢献能力の格差と流動性、さらにラウンドを独立変数とする分散分析を行った。貢献能力の格差×流動性の交互作用の効果が有意となり($F(1, 86) = 7.48, p = .01$)、格差ありのときに低流動よりも高流動でより協力的となる傾向が見られたが(図1; $F(1, 38) = 14.70, p < .01$)、そのような傾向は格差なしのときには見られなかった。なお、その他の交互作用は見られなかった。これらの結果は予想と一致するものではあるが、このような流動性と貢献能力の格差が協力行動に及ぼす影響について、より詳細な検討が必要だろう。

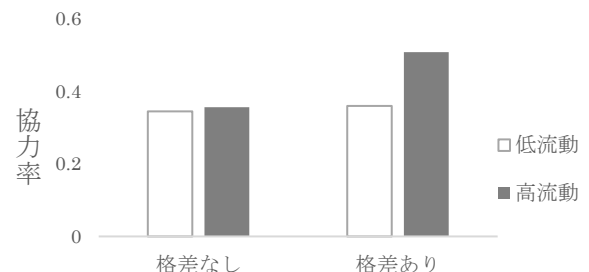


Figure 1 条件別の協力率

引用文献

岩谷舟真・正木郁太郎・村本由紀子(2020). 労働市場における個人のパフォーマンスと流動性の関連について. *経営行動科学*, 101-116. / 仲間大輔・仲村友希・村本由紀子(2019). 貢献能力の格差と組織内協力. *日本産業組織心理学会第35回大会* / 仲間大輔・渡部幹(2018) 能力の多様性と集団内協力. *日本社会心理学会第59回大会* / Rockmann, K. W., & Northcraft, G. (2018). Dilemma Portfolio: A Strategy to Advance the Study of Social Dilemmas in Organizations. *Acad. Manage. Ann.* / Sznycer, D., Takemura, K., et al. (2012). Cross-cultural differences and similarities in proneness to shame: An adaptationist and ecological approach. *Evolutionary Psychology* / 山岸俊男.(1998) 信頼の構造